



# 学校だより



令和6年 10月31日  
11月号  
調布市立第一小学校  
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> Tel.042(481)7636

## 「やればできる」の「やれば」の話

校長 樋川 宣登志

「やればできる」と言います。

確かに子どもの時期には、がんばって取り組みれば大抵のことはできるようになると私も考えますし、そうあってほしいです。

「やればできる」とは、どういうことでしょうか。

「やれば」が“条件”であり、「やれば→できる」のであれば、大切なことは「できる」より、「やれば」であると考えられます。

「やるかどうか」が、問題です。

- …「初めてだけど面白そうだからやってみる。」
- …「自信はないけど引き受けてみよう。」
- …「失敗するかもしれないけど挑戦するぞ。」
- …「上手いかないけど、最後までがんばろう。」etc.

「やる」「やってみる」「やりぬく」という気持ちがまず必要です。気持ちというより、「力」と言ってもよいかもしれません。「やれば力(りょく)」とでも言えばいいでしょうか。それがなければ、豊かな素質・素養も花開きません。「やれば」はエンジンをかけるキーであり、キーがなければエンジンはかかりません。

「やればできる」は、「できている」状態ではなく、まだ「できていない」状態なのです。

さて、ある調査(\*1)では、2019~2021の感染症禍の3年間で、「勉強しようという気持ちがわからない」という設問に「あてはまる」という子どもが半数を超えたという結果が報告されました。45.1%から54.3%と3年間で9.2ポイント増えたそうです。原因はひとつではないでしょうが、感染症禍で学習活動や体験活動、遊びが十分に行えなかったことの影響が考えられます。ちょっと気になるデータですね。

では、「やる」「やってみる」「やりぬく」気持ちを、どうすれば育めるでしょうか。漢字や計算を教えるようなノウハウはなさそうです。

「やる気が出たから始める」のではなく、「始めるとやる気が出てくる」という心理学的な研究(\*2)もあるようですが、その「始める」のが難しいというパラドクスにはまる感もあり…。特効薬はなさそうです。

「面白そう」「やってみよう」というキラキラした気持ち、少しの失敗なんて笑い飛ばすしなやかな心。それらを育てるためには、子どもたちの毎日の時間を、身の回りを、楽しい出来事や物事であふれさせてあげたいです。

特別なことを用意しなければならないわけではありません。「一緒にやってみよう」「面白そうだね」と声をかけること、「楽しかったね」「美味しいね」と笑いかけること、失敗したときに「ハハ、失敗しちゃった」「これくらい大丈夫大丈夫」と頭をなでること、そしてできた時には「やったあ!」「すごい!」と一緒に喜ぶこと。

大人と一緒に物事を楽しみ、世界を肯定的に受け止めていく。そんな毎日が、子どもたちの、前に進む心を育てるのではないのでしょうか。

子どもたちの「やれば」という気持ちを大切に、学校生活・日々の授業を工夫していきたいと考えます。

少なくともわたしたち大人は、子どもたちの「やる気」を削ぐようなことだけはしないように気を付けたいです。

(\*1)「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

(東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所)

同一親子(12学年)の意識・行動の変化を7年間にわたり継続調査

(\*2)「作業興奮」のメカニズム